

March 2022



コロナ禍での策定と 地域で育む“きずな”



Writer / 登別市社会福祉協議会 会長 山田正幸

きずな推進委員会より、第4期きずな計画の答申を受けました。今回は市の地域福祉計画とこれまで以上に連動しながら策定を行い、より全市を網羅できる計画となったことは大きな成果のひとつではないかと思えます。

登別社協では、第1期から第3期の16年で築き上げてきた地域のつながりや活動を強化し、これまで以上の充実を図りながら市民の皆さんと共に地域活動に取り組み、「きずなでまちづくり」を推進してまいります。

第4期きずな計画 新しい5か年が始まります

2021年度の1年間をかけ策定作業を進めてきた「第4期登別市地域福祉実践計画」（愛称きずな計画）。取り巻く社会状況と地域の課題、そして多くの市民のおもいが込められた計画ができあがりました。2022年4月から、新しい計画に基づく次の5か年の活動が動き出します。

【きずな計画の基本目標】

ひとりの小さな幸せを希望に紡ぐきずなでまちづくり

【第4期きずな計画のポイント】

◆地域の福祉活動拠点の整備

地域の拠点づくりを推進し、活動やいろいろな関係者との連動を生み出しながら、住民同士で支え合うことのできる地域づくりの実現をめざします。

◆活躍の場づくりと参加支援

高齢であったり障がいがあろうと、誰もが生きがいを持って暮らすことのできる社会をめざして、活躍の場づくりや参加のための支援を推進します。

◆福祉教育と人材育成

共に支え合う地域社会の実現をめざし、福祉に関心を持ち行動に移すことのできる市民を育てるため、福祉の理解を深める学習機会の提供などを行います。

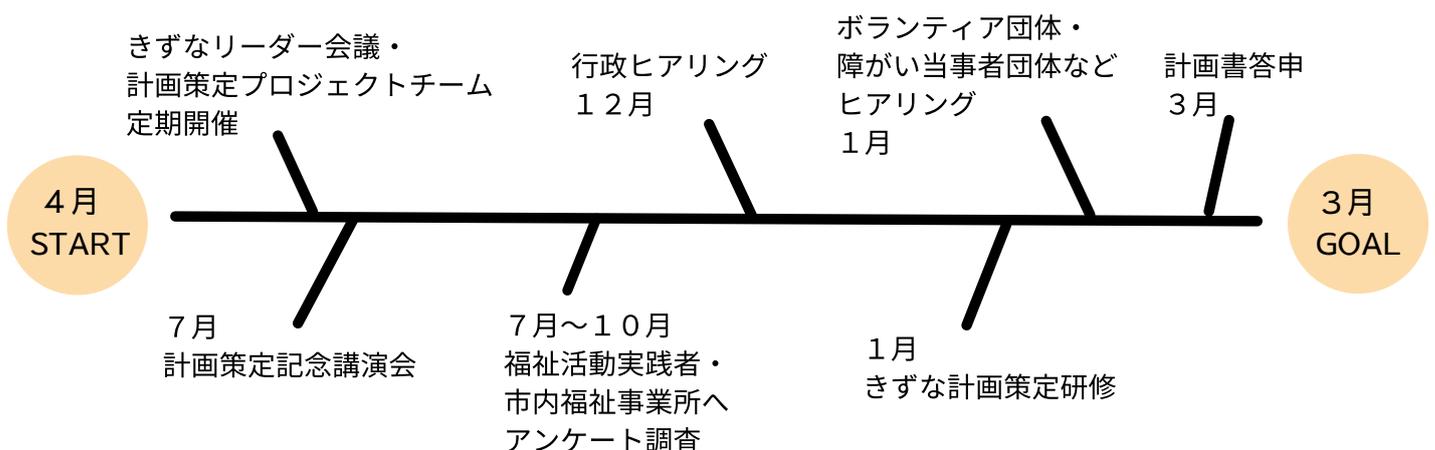
◆断らない総合相談支援体制の構築

複雑化した相談も受け止めることのできる総合相談の機能を、あらゆる関係機関との連携・連動によって強化します。

◆生活支援の取り組みの充実

住民主体での買い物支援や移動支援といった生活支援の取り組みを進めます。

【策定までの軌跡】



一人ひとりの生き方と暮らし方を
決して粗末にはしてはいけない

新しい地域福祉実践計画「きずな」が動き出す
市民の目線で 福祉の今日と明日を考える
市民のおもいを束ねて
いまできることを考え ためらわず動く

子どもも大人もお年寄りも 幸せづくりのパートナー
人を信じることで 生きる根っこが太くなる
人と手をつなぐことで 生きる歓びが湧いてくる

笑顔と感謝であふれる「きずな」をみんなで創るまち
我が事のように「きずな」でみんなが動くまち
一人ひとりの持ち味が生かされた「きずな」を紡ぐまち
自信と誇りを抱きしめて「きずな」が愛ことばになるまち
わたしのまち のぼりべつ
あなたのまち のぼりべつ

わたしも あなたも 子どもを真ん中に
次代へと 福祉をつなぐ人となる

“きずな”らしい計画になったと誇りに思う
(第6回計画策定プロジェクトチーム会議参加委員の声より)

きずな活動は素晴らしいと強く感じているひとりです。
人を育て、人を助け、学び合い、福祉のまちとして飛躍する
ため、みんなできずなを築き合いましょう。
(福祉活動実践者向けアンケートに寄せられた声より)

今回をもって毎月発行は終了！
今後は不定期で年に数度、地域の若い世代と
いっしょに新しい企画をお届けする予定です

乞うご期待

Kizuna &

地域福祉活動のお悩みは社協まで



筆者
きずな大使 鳥居一頼

計画のできあがったここからが、
次の5年のスタートラインだ
(第4回きずなリーダー会議
参加委員の声より)

他人に興味と思いやりを持って、
もっともっと支え合える社会にし
ていきたいですね！
(福祉活動実践者向けアンケート
に寄せられた声より)

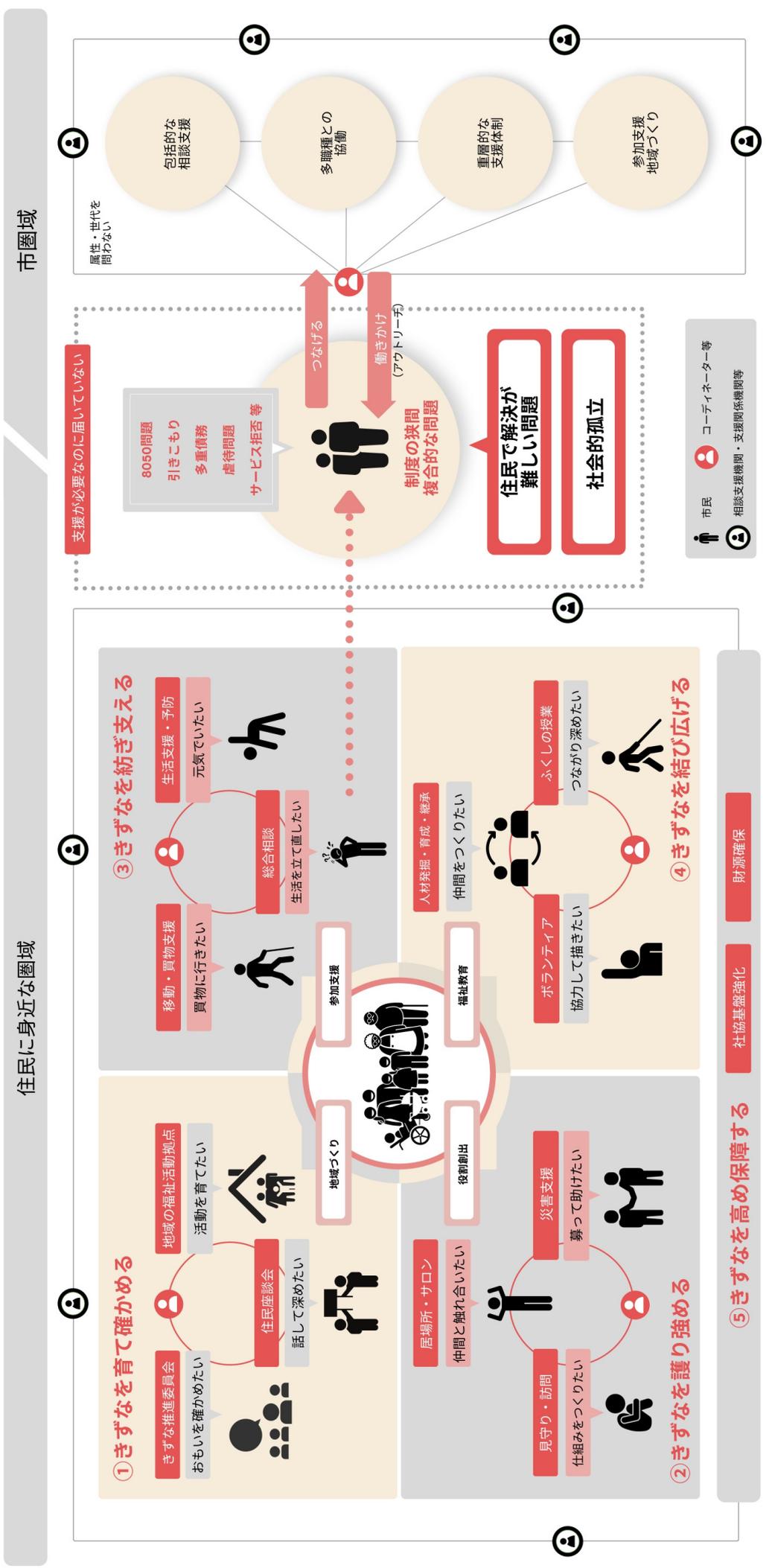
今後自分も地域活動にともに参加した
いと思います。自分に何ができるかを
考えたいです。
(福祉活動実践者向けアンケート
に寄せられた声より)



▲3月22日の計画書答申の様子

社会福祉法人 登別市社会福祉協議会
〒059-0016 登別市片倉町6丁目9番地1
総合福祉センターしんた21内
TEL / 0143-88-0860
web / <https://kizuna-shakyo.jp/>
mail / info@kizuna-shakyo.jp

一人ひとりの生き方・暮らしを豊かにするための第4期きずな活動の地域づくり（イメージ）



丸ごと受け止める機能（住民主体の原則に基づく活動）

断らない相談機能